

2026 年 9 月 18 日

公益社団法人 映像文化製作者連盟

映文連アワード 2026 受賞作決定！

今回新設の東京都知事賞も決定

受賞作品上映会は国立映画アーカイブで開催

公益社団法人 映像文化製作者連盟が主催する、国内唯一の産業・文化短編映像祭、
『映文連アワード 2026』の受賞作品が決定しました。



■「映文連アワード」とは

「映文連アワード」は、プロフェッショナルの仕事にふさわしい作品を積極的に発掘・顕彰することによって短編映像業界の活性化を図るとともに、次世代を担う新しい才能を発掘し、映像業界のインキュベータとしての機能を担うことを目的として、2007 年に創設された賞です。

■2026 年のコンセプト

今年 20 回目を迎えた『映文連アワード 2026』のコンセプト及びキャッチコピーは、“SHOW THE UNKNOWN まだ見ぬ、何かを。”。このような視点から、引き続き、クリエイターたちを支援し、育成することを意図し、映像製作者たちを応援する取り組みを展開しています。

『映文連アワード』は、「映文連 国際短編映像祭」の一環として開催し、ショートフ

イルムの可能性をより多くの人々に知っていただけるよう、東京、大阪等での上映会の展開を予定しております。

■応募・審査・受賞内容

今年度は、「コーポレート・コミュニケーション部門」「ソーシャル・コミュニケーション部門」「パーソナル・コミュニケーション部門」3部門合わせて、140作品の応募がありました。経験豊かなプロデューサー・ディレクターによる一次審査、さらに映画監督や広告関係者、映画評論家の方々（長谷部守彦氏、澤本嘉光氏、清水亮司氏、三井明子氏、谷川建司氏、岡島尚志氏、中山治美氏、松本貴子氏、安藤紘平氏、井手陽子氏、宮田公夫氏、水元泰嗣氏）及び連盟関係者による二次審査を経て、このたび、最優秀作品賞（グランプリ）1作品、文部科学大臣賞1作品、経済産業大臣賞1作品、東京都知事賞1作品、優秀作品賞（準グランプリ）3作品、部門優秀賞14作品、優秀企画賞10作品、企画特別賞1作品、優秀クリエイター賞1名、以上32作品と1名の受賞が決定しました。

今回、20年目にして初めてパーソナル・コミュニケーション部門から最優秀作品賞（グランプリ）が選出されました。また、新設の東京都知事賞の受賞作品も決定いたしました。

「映文連アワード2026」の表彰式は、11月30日（月）国立新美術館（東京都港区六本木7-22-2）講堂において開催し、受賞者に賞状とトロフィーが贈られます。

（表彰式は、Webでの生配信及びアーカイブを予定しております）

受賞作品上映会は、12月1日（火）・2日（水）に、20回目にして初めて国立映画アーカイブ（東京都中央区京橋3-7-6）にて開催いたします（小ホール）。20周年記念企画も予定しております。また、International Corporate Film Showing 2026は12月3日（木）夜に同じく国立映画アーカイブ・小ホールにて開催いたします。

皆さまの上映会へのご来場をお待ちしております。

【お問い合わせ先】

公益社団法人 映像文化製作者連盟

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町17-18 藤和日本橋小網町ビル7階

TEL.03-3662-0236 FAX.03-3662-0238

URL. <https://www.eibunren.or.jp>